

要 望 書

海上自衛隊大湊基地港内等の浚渫
及び大型艦艇の配備について

青 森 県 む つ 市
青 森 県 む つ 市 議 会

海上自衛隊大湊基地港内等の浚渫及び大型艦艇の配備について

政府の地震調査委員会は、今後30年以内に南海トラフにおいてマグニチュード8から9の大地震が70から80パーセントの確率で発生すること、及び北海道東部沖の太平洋で大津波を伴うマグニチュード9級の大地震の発生が「切迫している可能性が高い」との予測を公表しております。

このような事態になった場合、北日本において唯一海上自衛隊の基地機能を有し、外洋の影響が少なく穏やかな陸奥湾にある大湊基地こそ、災害物資の集積、艦艇整備及び補給支援等の補完基地として重要視され、国民、地域住民から大きな期待が寄せられるものと認識しております。

しかし、現在の大湊基地港内の芦崎湾は水深が浅く、海上自衛隊が現有する大型艦の受入れに制約があることから、この期待に応えるためにも早急に大湊基地港内及び出入港水路の浚渫により、所要の水深を確保する必要があると考えております。

浚渫により多くの艦艇の出入港が可能となれば、大湊基地構内の1万トンドックを利用し、艦艇等の修理や整備が基地内で行えるようになります。このことは国防上大変重要な意味を持つと同時に、長い航海の任務が増加している隊員たちが、むつ市に暮らす家族と共に過ごす時間が増えることに繋がります。

さらに、当市での艦艇等点検・修理業務の増大などにより産業・経済をはじめとした様々な分野での地域の活性化になります。

また、大湊基地に当地域の下北半島の名を冠した、輸送艦『しもきた』を始めイージス艦等の大型艦が配備されると、大湊基地が災害物資の集積及び補給支援等の補完基地として、今以上に重要な役割を果たすことができます。

むつ市は、明治35年の海軍大湊水雷団創設以来、長年にわたり共存共栄の関係にあり、今日の集団的自衛権行使容認等、国際舞台において新たな役割と重責を担う海上自衛隊に対し、地元としても惜しみない協力をさせていただき準備がありますので、大湊基地港内等の浚渫、大型艦艇の配備について、早期実現を図っていただきますよう要望いたします。

令和元年 月 日

むつ市長 宮下 宗一郎

むつ市議会議長 白井 二郎